

令和4年度 家庭基礎

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	年次／コース	高校2年
使用教科書	新図説 家庭基礎（実教出版）						
副教材など	家庭科5 5資料集（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分が生まれてから今まで、多くの人に支えられて育ってきたことに気づき、次世代を育む重要性を理解する単元です。また、乳幼児期の体の発達を学び、次世代を健やかに育むための態度の基礎を培います。 ・授業では、解説資料や動画を使って、授業プリントに取り組みます。 ・子どもの心身の発達にとって重要である情緒的な結びつきについて学び、親の役割について考え、子どもを育てることは親もともに育つことを理解しましょう。 ・授業の最後にプリントを提出します（成果点となります） ・授業ごとのリフレクションはClassroomにFormで送信します。その授業で学習したことの理解ができているかを問う内容になっています。リフレクションすることで学習内容を自分の中で整理し、次の授業につなげていくことにしましょう。
--

2. 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と生活、子どもの福祉について理解する [学びに向かう力・思考力・想像力] ・親の役割と発達の重要性、地域社会に果たす役割を理解する [知識技能の活用力・判断力・表現力] ・子どもを生み育てる意義や子どもと関わることの重要性を知る [知識技能の活用力・想像力・思考力・コミュニケーション力]

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児が人間の発達段階において重要な時期であることを理解し、家族との関わりや家庭生活が果たす役割を理解している。 ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている ・子どもを取り巻く環境整備と社会全体で支援する必要性を理解している。 ・子供のためのマスコットづくりやお菓子作りなどの実践活動に積極的に取り組み、技術を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの世界について興味関心を持ち、子どもの生活について積極的に子どもとかかわり、理解しようとしている。 ・親の役割や子どもを取り巻く状況の現状を知り、課題を見つけ解決に向けて考えようとしている。 ・子どもの発達の様子や生活に興味関心を持とうとしている ・実践学習の成果や反省などについて、レポートを通して表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ・保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来と結びつけながら、主体的に学ぼうとする意欲がある。
評 価 方 法	定期考査（学期末考査） 授業プリント マスコット作り（作品評価） お菓子づくり（レポート行動観察）	定期考査（学期末考査） 授業プリント リフレクション 実習レポート	授業プリント リフレクション
（成績割合） テスト 60% 成果物40% （作品点・行動観察・実習レポート・授業プリント・ワークシート・リフレクションシート）			

4. 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評 価 方 法
			A	B	C		
1	子どもとかかわる	・出産子育てクイズ	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを生み育てることは親の責任であり、社会の責任であると認識し、制度や法律の確認を、グループで協力しながら、主体的に調べ学習を行いまとめることができる。 	グループ発表 ワークシート レポート作成
		・子育てインタビュー		○	○		
2		・スイートポテト・マドレーヌの調理実習	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとってのおやつや食事の意義や与え方、栄養価を理解して、能動的にグループで協力して調理ができる。 	グループ発表 ワークシート 相互評価
		・離乳食ブッフェ		○	○		
		・グループ絵本読み聞かせ		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や心の豊かさを育む上で重要なはたらきを担う児童文化財を体感し、読み語りを工夫するなど積極的にグループで共有することができた。 	

令和4年度 家庭基礎

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	年次／コース	高校2年
使用教科書	新図説 家庭基礎（実教出版）						
副教材など	家庭科5 5 資料集（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<ul style="list-style-type: none"> ・時代とともに変化する家族や家庭のかたちを知り、自分らしい生き方について考える単元です。 ・授業では、解説資料や動画を使って、授業プリントに取り組みます。 ・家族・家庭に関わる法律については、結婚への意識が時代とともにどのように変化してきたのかを知り、これからの結婚の在り方や民法改正について考え、自らが創造する家族・家庭について発表や議論する時間を設けます。 ・授業の最後にプリントを提出します。 ・授業ごとのリフレクションはClassroomにFormで送信します。その授業で学習したことの理解ができているかを問う内容になっています。リフレクションすることで学習内容を自分の中で整理し、次の授業につなげていくことにしましょう。

2. 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の意義や機能について理解する [知識・技能の習得力・思考力・判断力] ・時代とともに変化する家族・家庭、その問題点について考える [知識技能の活用力・表現力・想像力] ・様々な結婚のかたちについて知り、自らが創造する家族・家庭について考え述べる [思考力・想像力・表現力] ・時代により変化する家族・家庭に関わる法律について理解する [知識・技能の活用力・思考力] <p>高齢社会の現状や心身の特徴や生活について知り、身近な課題と捉える [学びに向かう力・思考力・想像力]</p>

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生における発達課題を理解し、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力について理解できる。 ・結婚・家族家庭の多様化や時代とともに変化する役割について理解できる。 ・労働の意義や現在の労働環境などについて理解できる。 ・高齢社会と家族の実状について知り、社会的な制度や仕組みについて理解している。 ・民法について関心をもち、知識を身につけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活を見つめ、自立に向けて課題を発見し、自身の将来について思考、判断することができる。 ・家族・家庭に関するさまざまなデータから理解分析し、時代とともに変化する家族・家庭、その問題点について考える。 ・家族・家庭に関する課題を社会的背景を考慮しながら、解決に導くための考えをまとめ表現できる。 ・時代とともに変化する家族・家庭に関わる法律やその民法改正について知り、これからの男女のあり方や家族・家庭のあり方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分の生活の課題を発見し将来のために課題解決のために主体的に取り組むことができる。 ・男女共同参画社会や労働の意義や労働環境について、近い将来のことという意識を持ち積極的に望むことができる。 ・結婚・家族家庭のかたちや家族家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味関心を持つとしている ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴を身近な課題として捉え、積極的に高齢者とかかわろうとしている。
評 価 方 法	定期考査（学期末考査） 授業プリント リフレクション	定期考査（学期末考査） 授業プリント リフレクション	授業プリント リフレクション
<p>（成績割合） テスト 60% 成果物40%</p> <p>（授業プリント・リフレクションシート・グループ発表ワークシート・民法クイズ）</p>			

4. 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評 価 方 法
			A	B	C		
1	自分らしい生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦別姓についてのグループワーク ・家族法に挑戦 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を客観的に捉えると共に生涯を見通した一生についてワークシートを通してこれからの自分を考える。 ・自分がつくりたい家族やパートナーとの暮らしについて自分の考えを述べ合う。 ・男女共同参画社会の中で、自分らしさを発揮し、男女が協力して生きていける社会について考える。 ・時代とともに変化する家族・家庭について考える。 ・結婚について日本の現状を理解し、家族・家庭の役割・意義について考える。 ・家族に関わる法律について知り、これからの男女のあり方や家族のあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表 ワークシート レポート 動画視聴 考察 民法クイズ

令和4年度 家庭基礎

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	年次／コース	高校2年
使用教科書	新図説 家庭基礎（実教出版）						
副教材など	家庭科55資料集（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<ul style="list-style-type: none"> ・布の扱い方、アイロンのかけ方など、実習を通して、布の材質に応じた基本的な縫製技術を習得しましょう。また、作品に工夫を加えて個性的な作品作りを楽しみましょう。 ・授業では、Googleclassroomに動画を提示します。それを観ながら友だちと教え合いながら作品製作に取り組んでください。 ・その時間内の進捗をクリアするように、毎時間終了時に取り組みカードに記入し提出します。 ・完成後は、工夫や苦心したところをグループで共有し、完成に到る感想を発表し、良かった点を振り返りシートに記入して交換し、相互評価を行います。 ・苦手意識を持っていた人も成長とともにできるようになっていることを実感すると思います。

2. 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作に必要な知識と技術を習得できる。〔基本的な技術力・協働力〕 ・なみ縫いの仕方・ボタン付け・まつり縫い・スウェーデン刺繍など、必要な基本的裁縫を復習し習得できる。 〔技術習得・コミュニケーション力・協働〕 ・日常に使用する作品に工夫を加え、安全な衣生活を営むことができる 〔想像力・主体性・問題解決力・コミュニケーション力〕
--

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料、被服製作について、科学的に理解し、安全と環境に配慮した衣生活を主体的に営むために必要な知識を身につけている。 ・被服材料や縫製技術に関心をもち被服製作に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料や縫製技術に関心をもち、日常に使用する作品に工夫を加え、安全な衣生活を営むことができるよう考え発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料や被服製作について、関心を持ち、意欲をもって制作活動にとりくんでいる。 ・被服材料や縫製技術に関心をもち安全な衣生活を営むことができるようグループで教えあい、協力し合って作品の完成に向け取り組み、相互評価ができる。
評 価 方 法	定期考査（学期末考査） 実践カード 作品製作（スウェーデン刺繍） 行動観察 リフレクション	定期考査（学期末考査） 授業プリント リフレクション	授業プリント 相互評価表 リフレクション
(成績割合) テスト 60% 成果物40% (作品評価・実践カード・レポート・リフレクションシート)			

4. 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評 価 方 法
			A	B	C		
2	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデン刺繍 ・実習カードの作成 ・相互合評 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に作品の製作に取り組み、工夫を加え、時間内に作品を仕上げる事ができた。 ・製作の手順を知り、指示通りの縫い方や始末に丁寧にとりくみ、その時間内の進捗をクリアするように取り組みカードに記入する。 ・作品製作の工夫点や苦心したところをグループで共有し、完成に到る感想を発表し、相互評価を活発に行う。 	グループ活動 進行シート グループワーク

令和4年度 家庭基礎

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	年次／コース	高校2年
使用教科書	新図説 家庭基礎（実教出版）						
副教材など	家庭科55資料集（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の傾向を知り、健康的な食生活の必要性を学びます。具体的に栄養素と食品について、基礎的な知識を身につけましょう。また、安全な食生活をめざして食品衛生や環境とのかかわりについても考えましょう。 ・授業では、解説資料や動画を使って、授業プリントに取り組みます。 ・食に関わる様々な課題を発見し、自分ごとと捉え、改善策を考える取り組みも行います。 ・調理実習（簡単な日常食作り）を通して、基礎的な技術を習得します。 ・授業の最後にプリント（調理レポート）を提出します ・授業ごとのリフレクションはClassroomにFormで送信します。その授業で学習したことの理解ができているかを問う内容になっています。リフレクションすることで学習内容を自分の中で整理し、次の授業につなげていくことにしましょう。

2. 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割を理解し、自分の食生活を振り返り、課題点を考える。〔知識技能の習得・学びに向かう力〕 ・栄養素の働きを理解し、青年期の栄養の特徴を考える。〔知識技能の習得力・思考力・判断力〕 ・食生活を総合的にデザインするために必要な食材の適切な選択、調理、食生活の管理などの技術を、調理実習を通して身に付ける。〔知識・技能の習得力・表現力・判断力・学びに向かう力〕 ・現代の食の課題を知り、解決策を考える。〔知識技能の活用力・思考力・判断力〕

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義や役割・食生活をとりまく環境について理解できる。 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の基本的な技術を身につけ、実際の生活に生かすことができる。 ・自立に必要な食事づくりの技術や食材の適切な選択や衛生的な取り扱いができる。 ・調理の目標や手順・作業内容を理解し実習ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の食生活について課題を見つけ、解決を目指し考えを導くことができる。 ・栄養素の働きを理解し、食品の特性と調理の関係について科学的な思考を身につけ実際の食事作りにおける判断ができる。 ・現代の食生活にかかわる課題について調査発見し、解決する工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の自立に向けて、自分の食生活について課題を発見し、その課題解決に向けて知識を深めようとしている。 ・自分の食生活に関心を持ち、調理実習や実験などに科学的な視点から積極的に参加し、取り組もうとしている。
評 価 方 法	定期考査（学期末考査） 食生活日記 授業プリント 実習テスト（包丁の扱い方） リフレクション	定期考査（学期末考査） 授業プリント 食の課題調べ学習レポート リフレクション	授業プリント 実習における行動観察 実習記録（レポート） リフレクション
(成績割合) テスト 60% 成果物40% (授業プリント・実習テスト・実習レポート・行動観察)			

4. 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評 価 方 法
			A	B	C		
2 3	食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活日記 ・栄養バランスを考えた献立 ・調理実習 ・現代の食に関わる問題の解決 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活に関心を持ち、青年期に必要な栄養摂取量を念頭に、栄養バランスのとれた食事をとるように心掛けている。 ・青年期の食事摂取基準や現代の食生活の問題を理解し、改善を目指して献立を作成できる。 ・調理の目的を認識し、手順・作業内容を理解して、能動的にグループが協力して取り組むことができ、レポートを作成した。 ・実習テスト（包丁の扱い方） 食生活の課題を把握し、自らの食生活について多面的に捉え、自分ごとと捉えどのように行動すればよいか考え共有することができた。 	グループワーク ワークシート 調理レポート 作成 レポート作成